

# Let's TANDQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

アドバイザリーボード  
会議の様子

「授業研究」を柱にした  
取り組みについて

数学科教員対象ワークシ  
ョップの開催について

「総合的な探究の時間」  
で活用できる動画教材の  
公開について

## 「やりがい」の共有が可能なコミュニティの創出 ～協働をどのように広げていけるか～

本プロジェクトでは、文部科学省の視学官，国立教育政策研究所の研究官，他大学の教員，企業の方々をアドバイザリーボードとして，活動や今後の取り組みについて，随時ご意見等をいただき議論しながら進めています。

「どのように参加する人を広げていくのかが，最大の課題だと思います。そもそもこのようなプロジェクトに意欲的に参加する先生方は，授業のあり方を変えていこうとする気持ちが強い先生です。どちらかと言えば旧態依然の授業スタイルに固執するような先生方をどのように巻き込んでいくのかを考えていかないと，このプロジェクトが一部の先生の試みで終わってしまうように思います」こちらは，12月に実施したキックオフイベントの参加者からいただいたご意見です。このようなご意見をふまえ，3月に実施したアドバイザリーボード会議では，高校教育の現状から『協働をどう広げていくか』をテーマにディスカッションしました。

高校教員の意識が変わらないことについて，「生徒が楽しそうに学ぶ姿を見ることをやりがいとして変わっていくのではないか」「その程度で変わる人はとっくに変わっているのではないか」「探究的な学びに向けての教員のインセンティブがないのではないか」等のご意見が出ました。特に，探究活動については，「教員自身も探究的な学びを体験したことが少ないから先が見えない」「探究活動をやることに意味があることを教員自身が認識する必要がある」「探究活動をやったら楽しい，おもしろい」とクラスが盛り上がるという達成感によって，教員の満足度も上がるのではないかといいご発言から，「探究には大きなサイクルをまわすイメージがあるが，日常の授業の単元レベルで，小さなサイクルをまわすということもできる」「探究活動を問題発見からのパッケージにするとハードルが高い。これをやってみようという課題があり，課題解決の楽しい部分を見せて，間口を広げていけばいいのではないか」など，探究活動の実装化の方策に関して議論しました。そして，実装化に向けては「協働を広げていくには教育委員会や管理職，ミドルリーダーをいかに引き込んでいけるかが重要ではないか」と，管理職やミドルリーダーの在り方についても議論しました。さらには，「アンラーニング」といったキーワードをもとに「教員自身の学び直し，学びほぐしにはどういったインセンティブが必要なのか」「価値観のバージョンアップが重要ではないか」「様々な立場の人が協働して取り組み，発信していくことで，最終的には教育システム全体に影響を与えられるのではないか」というご意見も出てきました。

生徒が生き生きと学ぶ姿に「やりがい」を感じ，そしてその「やりがい」を共有する仲間やコミュニティを広げていきたいと考えています。

探究活動は，大学入試につながるのか，つながらないのか，ではなく，そもそも，生徒が社会に出てから生かされるもの，そのために必要なものではないか。

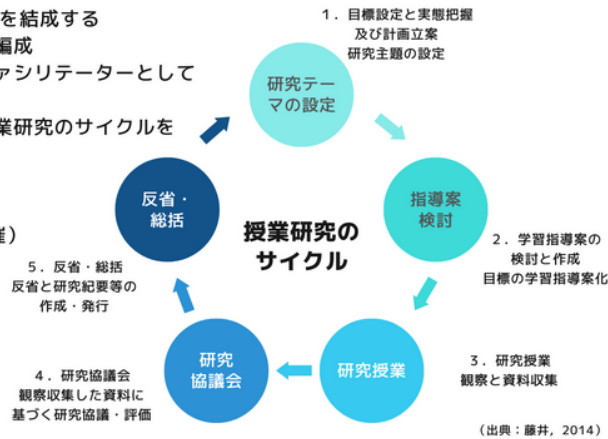
大学生は現在，プロジェクト型の活動の中で，自分の特長を出せないと企業に採用されない中，必死になって学んでいる。その必死感を高校教員は知らないのではないか。

企業では，アンラーニングしないと仕事ができなくなり，生活に直結している。教員のアンラーニングへのモチベーションはどこから湧き上がってくるのか。

生徒は，学校は選べるけれど，教員は選べない。企業なら教員の安心感を焦りに変えるインセンティブを与える仕掛けをつくれるのではないだろうか。

## 教員対象ワークショップ（2年プログラム）

- ① 5～10名で「授業研究チーム」を結成する  
※ 申込時の課題・想い等をもとに編成
- ② 各チームに大学教員等1名、ファシリテーターとして実践経験豊富な教員1名を配置
- ③ 1年間を通して、各チームで授業研究のサイクルを2回まわす
- ④ 2年間で、4サイクルまわす  
※ オンライン開催  
(研究授業は可能な範囲で対面開催)



授業の見方が変わる。  
生徒の見方が変わる。  
教材の見方が変わる。  
そして授業が変わる。

- 大学教員等からのアドバイス**  
 探究的な学びの実現に向けて、教科/教科教育学の専門的知見からのアドバイスをもとに、自分自身の日常の授業にも活かせる
- ツールキットの活用法を学べる**  
 Webページ上のツールキットを活用することで、授業改善に向けて自走できる
- 全国に仲間ができる**  
 悩みを共有し、探究的な・生徒主体の授業を実現するために議論できる仲間(コミュニティ)ができる

## 「授業研究」を柱に 子どもたちの学びをどのように変えていくか

本プロジェクトでは、探究的な学びの実装化、高校教員のコミュニティ創出に向けた方策として「授業研究」に着目しています。

授業研究サイクルは、①目標・研究主題の設定、②学習指導案の作成・検討、③研究授業の実施、④研究協議会の実施、⑤振り返りの5段階で構成されます。文部科学省長尾主任視学官は、授業力を上げるためには授業研究が必要で、「授業研究とは様々な教育課題を、教育実践を通して解決する方策を研究するもの」と話されます。「指導案の作成については、教育課題に対してどのように取り組むのかを示すもので、いろいろな人と協働して作成することで学びの大きな取り組みとなる。また、研究協議では、多様な見方や意見が出るよう、異なる校種や他教科の先生も参加するとよい。若い先生や他教科の先生が、本質をつくことも多く、自由に発言できる研究協議の場が、参加者全員が成長する機会となる。特に、授業者の自評が重要で、適切な自己評価ができる人は成長していける。」とお話いただきました。

学校や地域を越えた教員同士でチームを結成し、教育課題をもとに「問い」を見だし、協働しながら授業を創り上げ、振り返り、授業改善につなげていく授業研究のサイクルそのものが、教員にとっての探究的な学びとなるのではないのでしょうか。

本プロジェクトでは、これまで連携校等で授業研究を進めてきました。この4月より、全国の先生方を対象にした授業研究ワークショップを随時開催してまいります。現在、数学科の教員対象、指導主事・各学校のリーダー対象のワークショップへの参加者を募集しています。

すでにお申込みいただいた方からは、「申込みフォームに入力することで、自分自身の課題意識がクリアになりました。」「自分の授業を振り返り、課題と今後挑戦してみたいことを考えることができました。」「事前課題を通して、すでに学ばせてもらっています。」といった大変嬉しいお言葉をいただいています。

順次、他教科でもワークショップを企画・開催していきます。多くの先生方とともに、授業研究を柱にして、探究的な学びの実践コミュニティを拡げていけることを楽しみにしています。

## 「総合的な探究の時間」で活用できる 動画教材を Webページにて 4月公開!!

### ◆ 探究のプロセスにそった次のテーマで、ポイントを解説した動画・テキスト

- 探究する意義 ○課題を設定しよう ○情報を収集しよう ○集めた情報を整理・分析しよう
- 発表のしかた ○レポートや論文にまとめよう ○探究を振り返ろう

### ◆ データサイエンスの学習コンテンツ動画

教員も、生徒とともに学び、探究活動に役立てられる動画教材です。ぜひ、ご活用ください!

